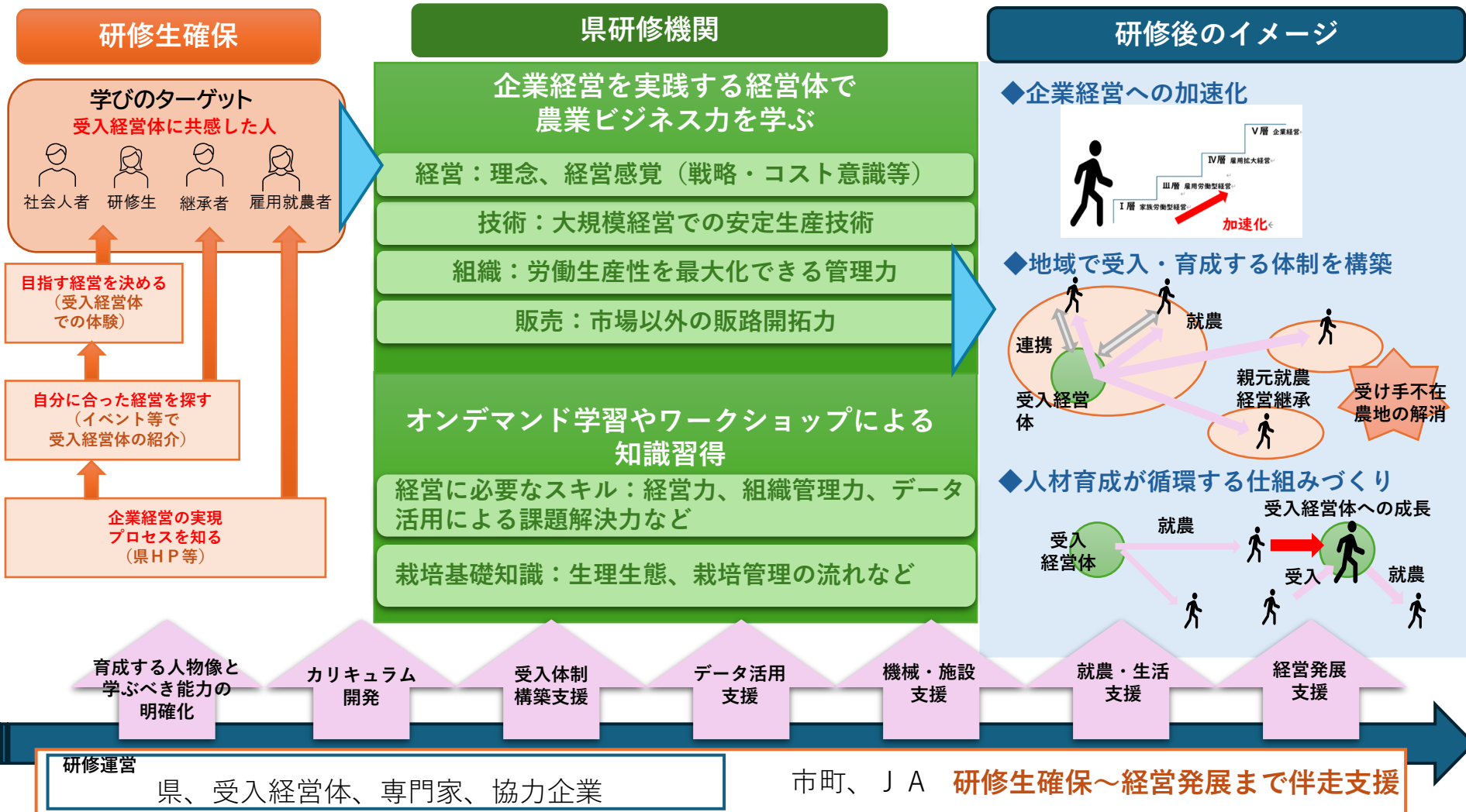


研修イメージ

1 新たな研修のスキーム図と主なポイント

- 研修開始前に受入経営体とマッチングを行うことで、将来的な営農ビジョンが明確になり、確実な就農に繋がる。
- 就農後のゴールイメージを明確にして研修することで、就農後は早期に企業経営への発展を目指す。
- 受入経営体をIV層以上の企業経営体とすることで、経営発展に必要な高度なスキル習得が可能であり経営発展の確実性と発展スピードを向上できる。
- 就農後の伴走支援を強化することで定着率が高まるとともに、将来的に地域の核となる担い手への育成が期待できる。
- 研修生を成長させて新たなロールモデルとし、受入経営体での実践を通じて次代の研修生育成へ還元することで、人材育成の好循環を構築する。



2 研修概要（現時点の検討状況） ※構築会議の検討状況により変更の可能性あり

1 開設時期

令和9年11月予定

※募集開始時期は令和8年秋頃。

2 研修期間

2年間

3 募集人数

令和9年度6人（3受入経営体）

令和10年度10人（5受入経営体）

4 研修内容

項目	内容	方法
基礎知識	栽培・土壌・農薬等栽培基礎	オンデマンド
	経営基礎（経営・組織管理・財務管理）	オンデマンド及びワークショップ
	データ活用、経営計画等	ワークショップ
実践研修	2年間	受入経営体でOJT

3 広島県新規就農者研修制度構築会議（仮称）について

1 目的

県主導新規就農者研修制度を構築するにあたって、受入経営体、専門家等から意見を聞き、カリキュラムや地域での支援体制など効果的な制度を構築することを目的に開催する。

2 構成（予定）

- 受入経営体（水稻、レンコン、園芸、観光等）
- 協力企業・専門家（農業経営・農業機械・金融等の専門家、農業法人経営者）
- 受託事業者
- 県関係機関
- ※事務局：農業経営課

3 会議運営

全体会議 2 回、分科会は品目や分野別に開催

4 令和 8 年度検討内容（案）

- ・会議の在り方
- ・研修で育成する人物像
- ・段階別経営モデル
- ・カリキュラムの全体設計
- ・共通カリキュラム
- ・受入経営体別のカリキュラムと受入体制の構築
- ・受入経営体での短期農業体験受入体制の構築
- ・研修体系及び支援スキーム

4 研修制度で育成する人物像等（案）

育成する人材像：

社会課題を見据え、収益性ある事業構想へと結び、実現までの道筋を描き、経営理念と使命を浸透させ、学びと挑戦の風土で人を育て、目標をやり抜く。
スマート農業の活用など現場とデータを統合し、環境価値と収益性を両立しながら、地域の未来を切り拓くリーダー。

○研修カリキュラムに必要な要素

経営力：組織を適切に導き、成長させるための意志と決断を高める

- ・経営者がもつべき「志」を理解し、自身の「志」に向き合い、経営理念を作成
- ・マーケット、地域、社会、の課題から解決策を見出し、ビジネスモデルを策定
- ・理念を反映した経営戦略（中長期事業計画等）を策定

組織

- ・経営指針書作成、組織図策定、人事制度(役職制度、賃金制度、評価制度)の策定・運用方法、人材採用(求人媒体選定、求人票の作成など)、社員面談、経営方針の発表など

財務

- ・月次決算、月次キャッシュフローの策定・運用方法、資金調達（ファンド紹介、金融機関向け事業計画策定など）、補助金活用など

販売

- ・販売管理表の作成・運営、新規開拓手法（営業）、営業資料の作成、ホームページ制作、SNS運用手法など

生産技術

- ・スマート農業活用・生理生態及び病害虫（品目別）、土壌肥料・農薬・生産性分析、生産記録・作業記録様式の作成、生産工程改善(現場改善)、作業管理表の作成・運用、収量分析、施肥設計、品種選定など

その他

- ・鳥獣害対策（鳥獣の生態と対策）
- ・資格取得⇒大型特殊：農大
- ・地域連携（地域活動等）

○能力別研修到達目標

		研修1年目	研修2年目
経営力	経営理念	経営理念の必要性を理解している	自分の経営理念を明確に言語化できている
		他社の理念や事例を参考に、自分の価値観を言語化し始めている	経営理念を事業計画に反映している
	データ活用	データの意味を理解し、指示に従って記録・確認ができる	データをもとに課題を発見し、改善案を検討できる
		生産・経営データの取りまとめ・活用方法が分かる	改善案を生産・組織・収支・コスト管理に活かすことができる
経営戦略	事業計画、労務計画、作業計画の作成方法が分かる	事業計画、労務計画、作業計画の作成ができる	
生産技術力	基礎知識	土壌肥料・生理生態・病害虫の基礎知識を理解し、作業の意味が理解できる	得た知識から生産課題解決に取り組むことができる
	観察力 (状況判断)	指示された管理作業を正確に再現できる	適期作業を判断し、遅れを防ぐ行動ができる
		作物の生育状態や圃場の変化に気づくことができる	病害虫や生理障害の初期兆候、圃場や作物の状態を観察し、管理作業の必要性を自ら判断できる
作業スピード	作業スピードを意識し、改善しようとする姿勢がある	動線や手順、道具の使い方を見直して作業効率を改善できる	
組織管理力	基礎知識	雇用する上での心構えや労務管理上の知識などを理解する	雇用環境整備に向けて組織体制等を整理する
	段取り	OJTや指示(目的・手順・基準)の出し方を理解する	OJTや指示の実践・振り返りを行う
		優先順位の決め方を学ぶ	
その他	販売力	販売状況や戦略を知る	販売先のニーズを知り、販路確保や開拓に向け、取り組むことができ、販売計画や出荷管理にも反映できる
	鳥獣害対策	鳥獣の生態と対策を知る	鳥獣害対策を実践する
	資格取得	大特など農業経営に必要な資格を取得する	
	地域連携	地域活動内容を知り、参加する	

5 研修制度設置に向けたスケジュール（案）

大分類	小分類	令和8年度										令和9年度									
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
研修制度構築準備	制度全体設計	← 概要案作成		→ 詳細案作成																	
	受入経営体との調整（受入体制等）	← 概要説明・調整		→ 詳細説明・調整																	
	市町等関係機関との伴走支援体制の構築（農地確保等）	← 概要説明・調整		→ 詳細説明・調整																	
	研修カリキュラム作成		● 委託契約	← 概要作成				→ 詳細作成				← 検証			→ 改善						
	短期農業体験受入体制の構築		● 委託契約	← 体制作成				→ 検証・改善													
	県新規就農研修構築会議の設立・運営	← 設立・キックオフ		→ 全体会議（年2回程度）、分科会（随時）																	
研修生の確保・研修開始	募集準備・確保	← 募集要項・HP作成等準備					→ 研修生募集（複数回募集）					● 審査会					● 審査会				
	研修等の実施											← 産地見学会・短期農業体験									